

名古屋東山周辺の昆虫相：Ⅱ. 甲虫目 (7) コメツキムシ科, オオキノコムシ科, テントウムシ科など

著者	内藤 通孝
雑誌名	椋山女学園大学研究論集 自然科学篇
号	45
ページ	75-88
発行年	2014
URL	http://id.nii.ac.jp/1454/00002263/

名古屋東山周辺の昆虫相

II. 甲虫目 (7) コメツキムシ科, オオキノコムシ科, テントウムシ科など

内 藤 通 孝*

Insect Fauna around Higashiyama in Nagoya
II. Coleoptera (7) Elateridae, Erotylidae, Coccinellidae, etc.

Michitaka NAITO

はじめに

「名古屋東山周辺の昆虫相」各論の第7回として、コメツキムシ科 Elateridae, ベニボタル科 Lycidae, ジョウカイボン科 Cantharidae, ホタル科 Lampyridae, カツオブシムシ科 Dermestidae, ヒョウホンムシ科 Ptinidae, コクヌスト科 Trogossitidae, ジョウカイモドキ科 Melyridae, ケシキスイ科 Nitidulidae, オオキスイ科 Helotidae, オオキノコムシ科 Erotylidae, テントウムシ科 Coccinellidae を取り上げる。これらは特別に注目して観察・採集してきた分類群ではないので網羅的ではないが、『愛知県の昆虫(上)』¹⁾に記録のないものも含まれているので、まとめて報告する。これらの科の昆虫は微小な種が多く、手元かなりの未同定種が存在しているが、今回はこれらを保留とする。

観察記録

分類・学名・和名は、『新訂原色昆虫大圖鑑 第II巻（甲虫篇）』²⁾, 『原色日本甲虫図鑑(Ⅲ)』³⁾に依った。古いものは採集し、標本として保管しているものが多い。2002年からはデジタルカメラによる写真記録を原則とし、死骸や種名確認等のやむを得ない場合は標本として保存している。生態写真の撮影および標本の採集・保管については、特に記載のないものは筆者による。

表記は簡略にするため、以下の原則に従った。

例数, 性（雌雄を鑑別した場合のみ♂, ♀の記号を入れた）, 採集（観察）年月（日）, 観察場所（名古屋市を省略）の順に記した。観察年月日は8桁（年月日の場合）または6桁（年月の場合）で示した。例えば, 「2 ex 19970727 昭和区八事本町興正寺」であれば, 2例（雌雄区別せず）で, 1997年7月27日に名古屋市昭和区八事本町興正寺の境内

* 生活科学部 管理栄養学科

で記録したことを示している。

体長は、標本の実測値を示し、標本が存在しない種については、括弧内に文献 3) による数値を示した。微小種についての実測は概の値である。

分布は、名古屋市・愛知県については『愛知県の昆虫(上)』を、日本・世界については文献 2, 3) を参考にした。日本については、北海道・本州・四国・九州に分布するものは「日本」とし、島嶼は省略した。『愛知県の昆虫(上)』に名古屋市の記録がない種の学名には*を付した。

1 コメツキムシ科 Elateridae

コメツキムシの仲間は、仰向けになると、胸を反りかえし、瞬間的に胸を折り曲げて、その反動で跳躍して姿勢を戻す。危険を察知すると、触角や肢を縮めて落下する(死んだふり、擬死という)が、仰向けになってしまった場合に姿勢を元にもどす役割がある。また、跳ねることで敵を脅かしたり、攪乱したりする効果があると考えられる。コメツキムシの名称は、この動作に由来し、頭を振って米をつく様子に似ていることから「米搗き虫」あるいは、頭(実際には胸部)を打ちつけて跳躍することから「叩頭虫」の字が当てられる(『広辞苑第6版』, 2008)。

1-1 ヒゲコメツキ *Pectocera fortunei**

観察・写真撮影: 1 ♀ 20120526 天白区農業センター(写真1-1A); 1 ♂ 20130515 昭和区滝川町(燈火飛来)(写真1-1B)

標本: 1 ♀ 19920519 昭和区滝川町(燈火飛来); 1 ♀ 19920602 昭和区滝川町(燈火飛来); 1 ♂ 19930517 昭和区滝川町(燈火飛来)

体長: 27~30 mm。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はないが、燈火によく飛来する。触角は、♂では櫛状、♀では鋸歯状。分布: 日本, 中国。

1-2 サビキコリ *Agrypnus binodulus*

標本: 1 ex 19920921 (~19930519) 昭和区滝川町; 1 ex 20120526 天白区農業センター; 1 ex 20130525 千種区平和公園(写真1-2)

体長14.5~15.5 mm。秋に採集した個体は翌年5月まで生存した。分布: 日本, 朝鮮半島。

1-3 ムナヒロサビキコリ *Agrypnus cordicollis**

標本: 1 ex 19930603 昭和区滝川町(燈火飛来)(写真1-3)

体長: 14.5 mm。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はない。分布: 日本。

1-4 ウバタマコメツキ *Cryptalaus berus*

観察・写真撮影: 1 ex 20030608 天白区天白町八事(写真1-4A); 1 ex 20080606 千種区星が丘元町椋山女学園大学構内(死骸)(一色忍)

標本: 1 ex 19660626 瑞穂区(写真1-4B左); 1 ex 19910514 昭和区滝川町(写真1-4B右)

体長: 25~27 mm。幼虫はアカマツ等の樹皮下にいて、ゾウムシ科, カミキリムシ科, タマムシ科等, 主に甲虫類の幼虫を捕食する⁴⁾。成虫の食性は不明である⁵⁾。分布: 本州・四国・九州, 台湾, ベトナム, ラオス。

1-5 オオフタモンウバタマコメツキ *Cryptalaus larvatus**

観察・写真撮影：2 ex 20110609 名東区猪高緑地 (写真1-5A)

標本：1 ex 20120530 名東区藤巻町 (写真1-5B)

体長：28 mm。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はない。暖地系の種で、2011年に初めて猪高緑地でコナラの樹液に来ているところを観察した。分布：本州・四国・九州，台湾，中国，ベトナム。和名はフタモンウバタマコメツキとしているものもある。

1-6 オオクシヒゲコメツキ *Tetrigus lewisi**

観察・写真撮影：1 ex 20070802 昭和区滝川町 (燈火飛来) (写真1-6A)；1 ex 20090731 千種区東山公園 (クヌギの樹液に来た。) (写真1-6B)

標本：1 ex 19650803 昭和区広路町新福寺；1 ex 19920801 昭和区滝川町 (写真1-6C 左：体長25 mm)；1 ex 20020803 昭和区八事本町興正寺 (死骸)；1 ex 20020810 昭和区八事本町興正寺 (死骸) (写真1-6C 右)

体長：25～37 mm。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はないが、普通に見られる。「クシヒゲ」は、♂の触角が櫛の歯に似ていることに由来する。文献2,3) には体長22～35 mm あるいは21～33 mm とあるが、写真1-6C 右は37 mm と巨大である。クヌギやコナラの樹液に来る。幼虫はコクワガタ等，甲虫の幼虫を捕食する⁴⁾。分布：日本，朝鮮半島，台湾，中国，ベトナム，ラオス。

1-7 クロツヤハダコメツキ *Hemicrepidius secessus*

標本：1 ex 19650705 昭和区；1 ex 19990626 昭和区八事本町興正寺 (写真1-7)

体長：17～18 mm。分布：本州・四国・九州。

1-8 クシコメツキ *Melanotus legatus*

標本：1 ex 19860811 昭和区滝川町；1 ex 19890614 昭和区滝川町；1 ex 19890708 昭和区滝川町；1 ex 19910502 昭和区滝川町 (燈火飛来)；1 ex 19930620 昭和区滝川町；1 ex 20020519 昭和区滝川町；1 ex 20030622 昭和区滝川町 (死骸)；1 ex 20080518 昭和区滝川町 (燈火飛来) (写真1-8)；1 ex 20130527 昭和区滝川町 (燈火飛来)

体長：15～20 mm。燈火によく飛来する。幼虫は畑作物の根茎を加害する³⁾。分布：日本。

1-9 アカハラクロコメツキ *Ampedus hypogastricus*

標本：1 ex 19990403 昭和区八事本町興正寺 (写真1-9)

体長：12 mm。通常，肢と腹部は赤褐色。幼虫はマツ類の朽木にいる³⁾。分布：日本。

1-10 キバネホソコメツキ *Dolerosomus gracilis**

観察・写真撮影：多数 20100429 昭和区八事本町興正寺 (写真1-10A：左下の濃色の個体が♂)

標本：1 ♂ 20030420 昭和区八事本町興正寺；1 ♀ 20100428 千種区星が丘元町 (写真1-10B)；2 ♂ 20100429 昭和区八事本町興正寺

体長：6.5～8 mm。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はない。色彩変異が大きい，♂では頭部と前胸背板は上肢より暗色。各種の花に集まる。分布：日本。

2 ベニボタル科 Lycidae

ベニボタル科、ジョウカイボン科、ホタル科はホタル上科に属し、軟鞘類とも呼ばれる。硬い体という甲虫目の一般的な特徴と異なり、上翅を含む体全体が柔らかい。軟鞘とは鞘^{さや}が軟らかいという意味である。甲虫の硬い上翅を鞘翅、甲虫目のことを鞘翅目とも言う。ベニボタル科は、蛍という名前はついているが、日本産種の中に発光する種は知られていない。

2-1 ベニボタル *Lycostomus modestus*

標本：1 ex 20110609 名東区猪高緑地 (写真2-1)

体長：9 mm。分布：日本、中国。

2-2 クロハナボタル *Plateros coracinus*

標本：1 ex 20110611 昭和区滝川町 (燈火飛来) (写真2-2)

体長：6.5 mm。分布：日本。

3 ジョウカイボン科 Cantharidae

ジョウカイボンは、「浄海坊」で、平清盛のことであるというが⁵⁾、名前の由来は定かでない。柔らかな体に似合わずに「獐猛なハンター」であり、種々の昆虫を捕食する。ジョウカイボン科やベニボタル科は捕食者に嫌われる体臭をもっている⁸⁾。

3-1 セボシジョウカイ *Lycocerus vitellinus*

観察・写真撮影：1 ex 20100418 昭和区滝川町 (写真3-1)

標本：1 ex 19940528 昭和区八事本町興正寺；1 ex 19970519 昭和区滝川町；1 ex 200404 昭和区滝川町；1 ex 20040508 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20070428 昭和区滝川町 (死骸)；1 ex 20120512 昭和区滝川町

体長：8～9 mm。普通に見られる。分布：日本。

4 ホタル科 Lampyridae

ホタルと言えば、「光る」だが、実際には夜行性 (断続的に強く光る)、両行性 (連続的に弱く光る)、および昼行性 (殆ど光らない) の種がある⁶⁾。夜行性の種は、個体間の情報伝達手段として発光を用い、それを感知するための大きい複眼をもっている。昼行性の種は、複眼は小さく、前胸背板下に収まる。情報伝達的手段としては匂い (フェロモン) を用い、それを感知する長くて幅広いか、枝分かれして表面積の広い触角をもっている。♂は♀と比較して、複眼と触角が大きく、体は小さい傾向がある。♀は翅が退化する傾向があり、下翅を欠くもの、上翅が縮小または退化したもの、さらには、成虫になっても幼虫型の種もある⁸⁾。

4-1 オバボタル *Lucidina biplagiata**

標本：2 ex 20110609 名東区猪高緑地 (写真4-1)

体長：7～8 mm。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はない。昼行性で、フェロモンを情報伝達的手段とする⁶⁾。分布：日本、サハリン、朝鮮半島。

4-2 クロマドボタル *Pyrocoelia fumosa*

観察・写真撮影：1 ♂ 20060620 千種区東山公園 (写真4-2A)

標本：1 ♂ 20120624 千種区東山公園 (写真4-2B)

体長：9 mm。♂は前胸背板の両側前縁に透明な部分があり、頭部を引っ込めると眼が丁度この部分に収まる。♀は白色で、翅が退化して飛べない。幼虫は陸貝を食べる⁶⁾。分布：本州（近畿以東）。

4-番外 ゲンジボタル *Luciola cruciata*

標本：1 ♂ 20120624 昭和区滝川町（写真4-番外）

体長：12 mm。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はない。前日に、近くの興正寺で観蜚会が催されており、明らかに人為的放虫によるものである。分布：本州・四国・九州。

5 カツオブシムシ科 Dermestidae

一般に乾燥した動物質を食べ、一部の種は貯蔵穀類等の植物質も食害する。毛織物、絹製品、魚類の干物、穀物等の害虫として知られる種も多い。

5-1 ヒメカツオブシムシ *Attagenus unicolor*

標本：198706 昭和区滝川町；1 ex 199006 昭和区滝川町（写真5-1）

体長：4.5～5 mm。毛織物等の害虫。分布：日本、朝鮮半島、台湾、中国、モンゴル、北アメリカ。

5-2 ヒメマルカツオブシムシ *Anthrenus verbasci*

観察・写真撮影：1 ex 20080419 千種区星が丘元町椋山女学園大学構内（写真5-2A）；
多数 20090531 昭和区八事本町興正寺（写真5-2B：マーガレット花上）

標本：1 ex 20100406 昭和区滝川町

体長：2.5 mm。毛織物等の害虫。野外ではマーガレット等の花上で見られるが、これらの成虫は室内などで既に交尾・産卵を済ませているものが多い⁸⁾。小動物の骨格標本作るときに、この幼虫に食べさせると、きれいな標本ができる。分布：日本、世界各地。

6 ヒョウホンムシ科 Ptinidae

シバンムシ科 Anobiidae に含められることもあるが、より動物質に適応している。一般に乾燥動植物質を食べる。以下の標本はいずれも、多くの動物標本を所蔵する大学医学部の構内で採集したものである。

6-1 ニセセマルヒョウホンムシ *Gibbium aequinoctiale*

標本：1 ex 19900630 昭和区鶴舞町名古屋大学医学部構内（写真6-1）

体長：2.5 mm。分布：本州・四国・九州、世界各地。

6-2 ヒメヒョウホンムシ *Ptinus clavipes*

標本：1 ♀ 19900131 昭和区鶴舞町名古屋大学医学部構内；1 ♀ 19911229 昭和区鶴舞町名古屋大学医学部構内（写真6-2）

体長：3 mm。分布：本州・四国・九州、世界各地。

7 コクヌスト科 Trogossitidae

コクヌストとは、^{こくぬすつと}穀盗人の意味であるが、コクヌスト *Tenebroides mauritanicus* のように貯穀害虫となる種はむしろ稀で、実際は穀物にやってきた他の昆虫を捕食するものも多い。

7-1 オオコクヌスト *Trogossita japonica*

標本：1 ex 19890826 昭和区滝川町（写真7-1）

体長：18 mm。成虫，幼虫ともにマツ類の伐採木の樹皮下に生息し，キクイムシ等の穿孔性甲虫を捕食する。松枯れの原因となるマツノマダラカミキリの幼虫を捕食することで注目されている⁸⁾。分布：日本，朝鮮半島。

8 ジョウカイモドキ科 Melyridae

ジョウカイモドキとは，ジョウカイ（ボン）に似て非なるものという意味である。昆虫には「…ダマシ」，「…モドキ」，「ニセ…」といった名が多いが，何れも「分類学的には異なるが，見掛けが似ている」ものに対して用いられる。

成虫は種々の花に集まり，花粉とともに他の昆虫も捕食する。幼虫も捕食性であり，樹木の材中の坑道，樹皮下，ときには動物の死骸などで見出され，そこに生息する他の昆虫を捕食すると考えられている⁸⁾。

8-1 ヒロオビジョウカイモドキ *Intybia histrio**

標本：1 ♂ 20130805 名東区猪高緑地（写真8-1）；2 ♂ 20130830 名東区牧野ヶ池緑地（アカメガシワの葉裏に数匹とまっていた。）

体長：2.5 mm。『愛知県の昆虫(上)』には愛知県の記録はない。上翅の幅広い横帯は，前後と会合部は痰黄色で，中心部は橙色だが，死後には中心部の橙色は目立たなくなる（写真は生存時に撮影）。分布：本州・四国・九州。

9 ケシキスイ科 Nitidulidae

和名のケシキスイは，「芥子粒のように小さい，樹の汁を吸う虫」という意味である。実際，芥子粒の如く小さい（1～5 mm）ものが多いが，10 mmを超えるものもある。

9-1 クロハナケシキスイ *Carpophilus chalybeus*

標本：1 ex 20090927 昭和区八事本町興正寺（写真9-1A）；1 ex 201211 昭和区滝川町（写真9-1B）

体長：2.5 mm。「キスイ」は「樹の汁を吸う虫」という意味だが，花上に見られる。分布：日本，台湾，朝鮮半島，中国北東部，サハリン，シベリア東部。

9-2 ルイスコオニケシキスイ *Cryptarcha lewisi**

標本：1 ex 19900818 昭和区八事本町興正寺；1 ex 19920801 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20100701 千種区東山公園（写真9-2）

体長：3 mm。和名は，「ルイス（人名）の，小さい鬼のようなケシキスイ」の意。クヌギ等の樹液に来る。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はない。分布：本州・四国・九州，台湾，沿海地方，朝鮮半島，中国。

9-3 コヨツボシケシキスイ *Librodor ipsoides*

観察・写真撮影：1 ex 20110801 名東区藤巻町（写真9-3）

体長：(5.2～6.9 mm)。分布：北海道・本州・四国，朝鮮半島，サハリン，シベリア東部。

9-4 ヨツボシケシキスイ *Librodor japonicus*

観察・写真撮影：多数 20070524 千種区東山公園（写真9-4A：樹液に集まっている。）

標本：1 ex 196307 昭和区；1 ex 19650919 昭和区広路町新福寺；1 ex 20020821

昭和区八事本町興正寺（死骸）；1 ex 20020922 昭和区八事本町興正寺（写真9-4B：ヨコヅナサシガメの幼虫5匹により捕食されていた。）；1 ex 20030413 昭和区八事本町興正寺（ヨコヅナサシガメ成虫により捕食されていた。）；2 ex 20030525 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20040411 昭和区八事本町興正寺（死骸）；2 ex 200706 千種区東山公園；1 ex 20100522 千種区東山公園（写真9-4C）

体長：7～12 mm。和名は、「4つの紋（ホシ）をもつケシキスイ」の意。樹液に普通。頑丈そうなつくりの虫であるが、ヨコヅナサシガメの餌食になっているのを観察している。分布：日本、台湾、朝鮮半島、中国、沿海地方、東南アジア、ネパール、インド。

10 オオキシイ科 Helotidae

10-1 ヨツボシオオキシイ *Helota gemmata**

観察・写真撮影：1 ♀ 20040515 千種区東山公園（写真10-1A：ヨツボシケシキスイ等とともに樹液に集まっていた。）；1 ♀ 1 ♂ 20050515 昭和区八事本町興正寺（写真10-1B：上♀，下♂）

標本：1 ♀ 19920801 昭和区八事本町興正寺（～19950412）；1 ♀ 20030803 昭和区八事本町興正寺；3 ♂ 3 ♀ 200706 千種区東山公園

体長：12～15 mm。翅端は♂では丸く，♀では尖る。飼育で2年半以上生存した。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はないが，東山周辺で普通に見られる。分布：日本。

11 オオキノコムシ科 Erotylidae

オオキノコムシの名前と異なり，2～3 mmの微小種も多く，「チビオオキノコ」といった矛盾する名前がついているものもある。

キノコには多くの昆虫が集まるが，とくに甲虫類はキノコと関係を有する種類が多い。甲虫類が集まるキノコの多くはハラタケ類，ヒダナシタケ類，腹菌類などの担子菌類に属する。同じキノコを食する菌食性甲虫であっても，種によって摂食部位は異なり，オオキノコムシ科の多くは，主にキノコの髷や管孔部の子実層や実質部を食べる⁸⁾。

11-1 ルリオオキノコ *Aulacochilus sibiricus**

観察・写真撮影：多数 20030629 名東区藤巻町（写真11-1A）

標本：1 ex 20030629 名東区藤巻町；1 ex 20050804 昭和区滝川町（死骸）；1 ex 20090510 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20090816 昭和区八事本町興正寺（写真11-1B）；1 ex 20100704 昭和区滝川町（燈火飛来）

体長：7 mm。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はないが，東山周辺で観察される。カイガラタケ類につく³⁾。分布：本州・四国・九州，台湾。

11-2 カタモンオオキノコ *Aulacochilus japonicus*

観察・写真撮影：多数 20090626 千種区東山公園（写真11-2A：キノコ，おそらくヒダナシタケ目多孔菌科シミタケに来た。）

標本：1 ex 20080824 昭和区滝川町（燈火飛来）；1 ex 20090626 千種区東山公園（写真11-2B）

体長：5～6.5 mm。カワラタケ等につく³⁾。分布：本州・四国・九州。

11-3 セモンホソオオキノコ *Dacne picta*

標本：2 ex 20050806 昭和区八事本町興正寺（写真11-3A, 写真11-3B）

体長：2～2.5 mm。ヒダナシタケ目多孔菌科アイカワタケ属のヒラフスベに集まっていた。分布：日本，アムール。

11-4 ヒメオビオオキノコ *Episcapha fortunii*

標本：多数 20040529 昭和区八事本町興正寺（写真11-4A）

標本：1 ♂ 1 ♀ 20030510 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20090626 千種区東山公園；1 ex 20120522 昭和区滝川町（燈火飛来）（写真11-4B）

体長：9～12 mm。眼は大きく突出する。カワラタケ等につく³⁾。分布：本州・四国・九州。

11-5 ミヤマオビオオキノコ *Episcapha gorhami**

標本：1 ex 20110827 昭和区八事本町興正寺（写真11-5）

体長：12 mm。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はない。眼はあまり突出しない。カワラタケ等につく³⁾。分布：日本。

11-6 ホソチビオオキノコ *Triplax japonica**

標本：1 ex 20111017 昭和区八事本町興正寺（写真11-6）；1 ex 20120516 昭和区八事本町興正寺

体長：4 mm。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はない。ヒラタケ類につく³⁾。分布：日本。

11-7 アカハバビロオオキノコ *Neotriplax lewisii*

標本：1 ex 20030518 昭和区滝川町（写真11-7）

体長：5 mm。橙赤色で，触角・肢は黒い。カワラタケ，カイガラタケ等の多孔菌に集まる³⁾。分布：本州・四国・九州。

12 テントウムシ科 Coccinellidae

テントウムシは「天道虫」（「瓢虫」，「紅娘」の字も当てられる），即ち，太陽の虫であり，天気の良い日に飛び回り，昔から親しまれてきた。

12-1 ムツボシテントウ *Sticholotis punctata*

観察・写真撮影：1 ex 20110505 昭和区八事本町興正寺（写真12-1A）

標本：1 ex 20100810 千種区東山公園（写真12-1B）

体長：3 mm。単為生殖をすると考えられている³⁾。分布：本州・四国・九州。

12-2 フタホシテントウ *Hyperaspis japonica*

標本：1 ex 19990429 昭和区滝川町（写真12-2）

体長：2 mm。コナカイガラムシ類の天敵³⁾。分布：日本，シベリア。

12-3 アカホシテントウ *Chilocorus rubidus**

観察・写真撮影：1 ex 20021130 昭和区八事本町興正寺（写真12-3A）

標本：1 ex 20030329 昭和区八事本町（死骸）（写真12-3B）；1 ex 20030603 千種区星が丘元町

体長：5～6.5 mm。上翅に縦長の赤紋があるか，赤色で周辺部が黒色。胸部下面は赤褐色。タマカイガラムシの天敵³⁾。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はなく，「全国的にも少なく，本県も稀」とある。分布：日本，シベリア，ネパール，中国，インド。

12-4 ジュウサンホシテントウ *Hippodamia tredecimpunctata*

標本：1 ex 20080613 千種区星が丘元町（燈火飛来）（写真12-4）

体長：6 mm。分布：日本，朝鮮半島，シベリア，ヨーロッパ。

12-5 ナナホシテントウ *Coccinella septempunctata*

観察・写真撮影：1 ex 20130427 千種区平和公園（写真12-5）

標本：1 ex 19911117 昭和区滝川町

体長：7 mm。普通に見られる。分布：日本，朝鮮半島，中国，シベリア，ヨーロッパ。

12-6 ウスキホシテントウ *Synharmonia hirayamai**

標本：1 ex 200404 昭和区滝川町（写真12-6）

体長：3.5 mm。『愛知県の昆虫(上)』には愛知県の記録はない。分布：日本。

12-7 ヒメカメノコテントウ *Propylea japonica*

観察・写真撮影：1 ex 20080605 千種区東山公園（写真12-7A：基本型）；1 ex 20080615 昭和区八事本町興正寺（写真12-7B：せすじ型）

標本：2 ex 19910613 西区野南町（せすじ型）；1 ex 19911117 昭和区滝川町（基本型）；1 ex 19921111 昭和区滝川町（基本型）

体長：3.5 mm。普通に見られる。「せすじ型」では，上翅の黒紋は会合部のみが黒く残る。分布：日本，朝鮮半島，中国，サハリン，シベリア，インドシナ半島，タイ，インド。

12-8 ムーアシロホシテントウ *Eocaria muiri*

観察・写真撮影：1 ex 20080505 昭和区滝川町（写真12-8）

標本：2 ex 19930504 昭和区滝川町；1 ex 20021005 昭和区滝川町

体長：4～4.5 mm。分布：日本，台湾，中国。

12-9 ウンモンテントウ *Anatis halonis**

標本：1 ex 19910325 昭和区鶴舞公園（写真12-9）⁷⁾

体長：9 mm。曜変天目茶碗を想起させる黄色環に囲まれた黒紋が特徴的。『愛知県の昆虫(上)』には名古屋市からの記録はない。やや山地性の種で，鶴舞公園への植物の移植に伴う人工的移入の可能性がある。分布：日本。

12-10 テントウムシ *Harmonia axyridis*

観察・写真撮影：1 ♂ 1 ♀ 20050529 昭和区八事本町興正寺（写真12-10A：上に乗っているのが♂）；1 ex 20080518 昭和区八事本町興正寺（写真12-10B：紅型で殆ど斑紋が消失した個体）；1 ex 20080604 昭和区滝川町（写真12-10C：四紋型）

標本：2 ex 19920605 昭和区滝川町；1 ex 19920628 昭和区滝川町（死骸）；1 ex 19940603 昭和区滝川町；2 ex 200006 昭和区八事本町；1 ex 20080528 昭和区滝川町（写真12-10D：紅型）；1 ex 20100626 千種区星が丘元町椋山女学園大学構内（燈火飛来）（写真12-10E：斑型）

体長：5～7 mm。様々な色・紋様の変異がある。最近はやや和名をナミテントウとすることが多いが，古来テントウムシと言えばこの種である。並（ふつう）のテントウとは頂けない名称である。主に次の4遺伝型がある。紅型（ h ）：赤地に（原則として）19個の黒紋。斑型（ h^A ）：黒地に6対の赤紋（ときに一部が癒合または消失）。四紋型（ h^{Sp} ）：黒地に赤紋が縦に2対。二紋型（ h^C ）：黒地に赤紋が1対。これらは複対立遺伝子（あるいは極めて接近した座を占める偽対立遺伝子）で，優劣関係は $h^C > h^{Sp} > h^A > h$ 。シベリア西部

では、殆どが斑型だが、東に向かうにつれて紅型に入れ替わり、東端の沿海州では二紋型と四紋型が出現する。二紋型と四紋型の割合は中国東北部から南下するにつれて増加する。日本列島では、北から南に向かうにつれて、紅型に対する二紋型の比率が高くなる⁸⁾。分布：日本、台湾、朝鮮半島、中国、サハリン、シベリア。

なお、本種に極めて似たクリサキテントウ *Harmonia yedoensis* があるが、斑紋多型も並行的に類似し、成虫のみでの鑑別は困難である³⁾。ここではこの2種を区別せず、全てテントウムシとする。

12-11 キイロテントウ *Illeis koebelei*

標本：1 ex 19900820 昭和区鶴舞公園；1 ex 19911123 昭和区滝川町；1 ex 199206 昭和区滝川町（死骸）；1 ex 200908 昭和区滝川町（死骸）（写真12-11）；1 ex 201207 昭和区滝川町

体長：3.5～4 mm。白渋菌を食する³⁾。分布：本州・四国・九州、台湾。

12-12 ニジュウヤホシテントウ *Epilachna vigintioctopunctata*

標本：1 ex 20070813 昭和区滝川町；1 ♂ 1 ♀ 20120708 千種区東山公園（写真12-12：上に乗っているのが♂）；1 ex 201306 千種区東山公園

体長：6～7 mm。東アジアから東南アジア、オセアニア、オーストラリアにまで広く分布するナス科作物の害虫。分布：本州・四国・九州、台湾、中国、インドシナ半島、インド、ニューギニア、オーストラリア。

ま と め

名古屋市内で観察・採集したコメツキムシ科10（5）種、ベニボタル科2種、ジョウカイボン科1種、ホタル科2（1）種、カツオブシムシ科2種、ヒョウホンムシ科2種、コクヌスト科1種、ジョウカイモドキ科1（1）種、ケシキスイ科4（1）種、オオキスイ科1（1）種、オオキノコムシ科7（3）種、テントウムシ科12（3）種を報告した。このうち、括弧内は『愛知県の昆虫(上)』に名古屋市からの記録のないものである。

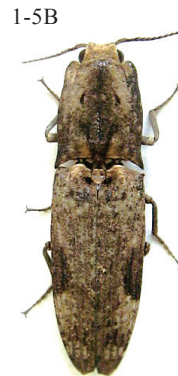
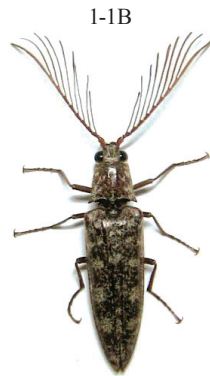
謝辞

キノコについてご教示下さった一色忍氏に深謝する。

文 献

- 1) 愛知県昆虫分布研究会：愛知県の昆虫(上) 愛知県 1990
- 2) 新訂原色昆虫大圖鑑 第Ⅱ巻（甲虫篇）北隆館 2007
- 3) 黒澤良彦，久松定成，佐々治寛之編：原色日本甲虫図鑑(Ⅲ) 保育社 1985
- 4) 鈴木知之：朽ち木にあつまる虫ハンドブック 文一総合出版 2009 (ISBN978-4-8299-0140-3)
- 5) 伊沢尚：図解雑学 昆虫の不思議 ナツメ社 2006 (ISBN4-8163-4111-0)
- 6) 週刊朝日百科 動物たちの地球79 昆虫7 カブトムシ・コガネムシ・ホタルほか 朝日新聞社 1992
- 7) 内藤通孝：名古屋市におけるウンモンテントウの記録 甲虫ニュース 95: 4, 1991
- 8) 石井実，大谷剛，常喜豊編：日本動物大百科10 昆虫Ⅲ 平凡社 1998 (ISBN4-582-54560-2)

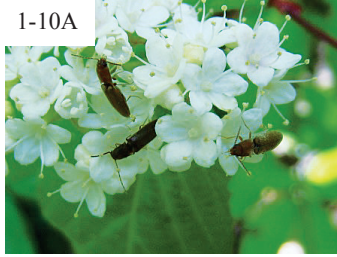
名古屋東山周辺の昆虫相



1-9



1-10A



1-10B



2-1



2-2



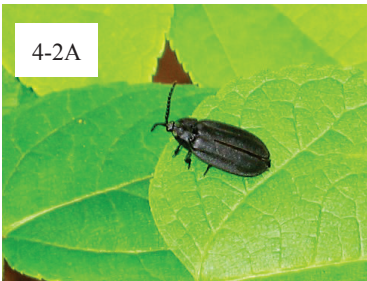
3-1



4-1



4-2A



4-2B



4-番外



5-1



5-2A



5-2B



6-1



6-2



7-1



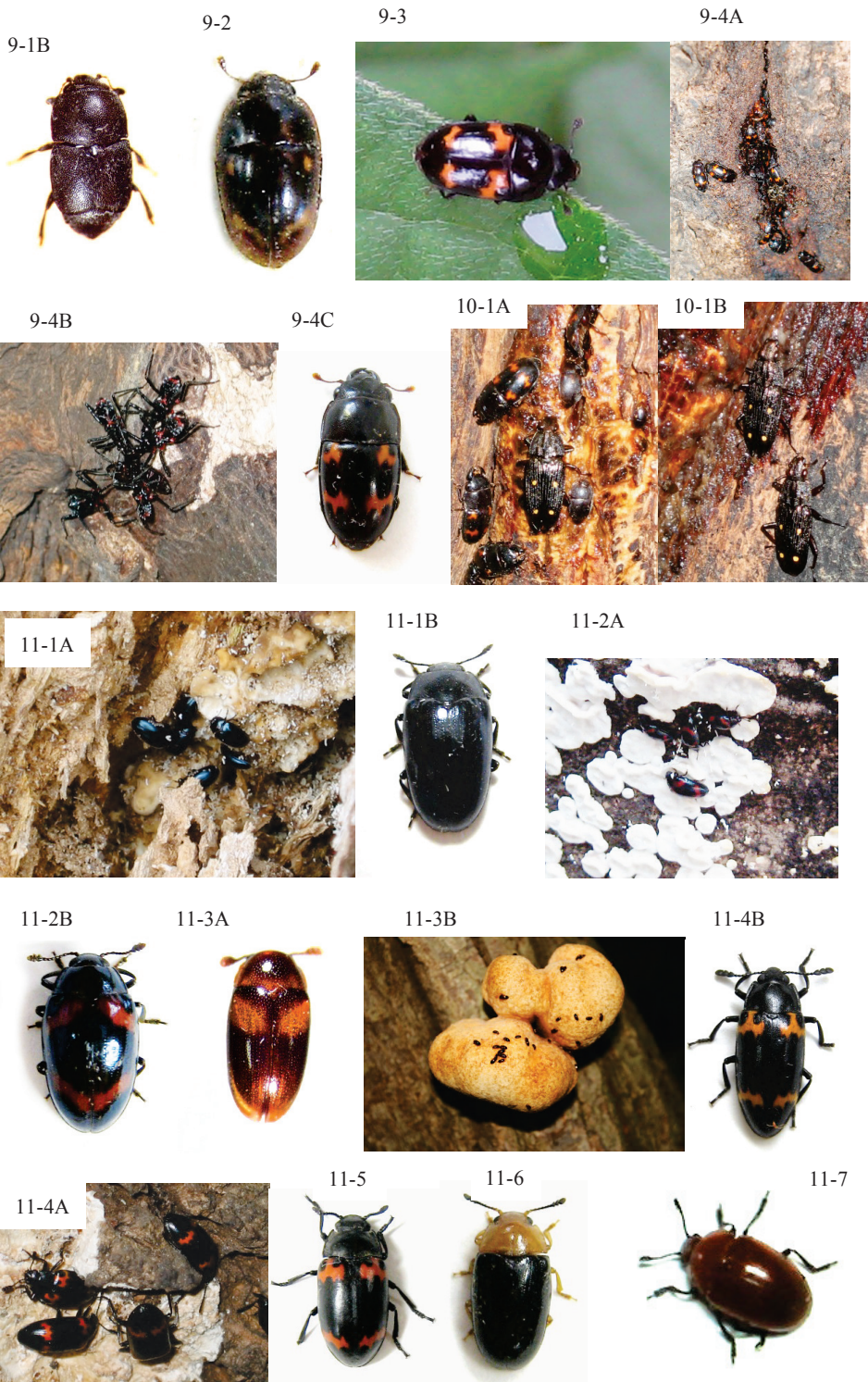
8-1



9-1A



名古屋東山周辺の昆虫相



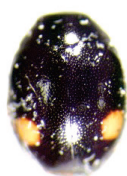
12-1A



12-1B



12-2



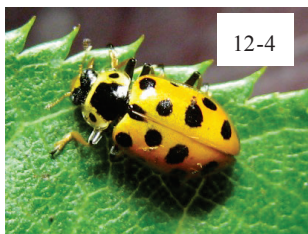
12-3A



12-3B



12-4



12-5



12-6



12-7A



12-7B



12-8



12-9



12-10A



12-10B



12-10C



12-10D



12-10E



12-11



12-12

